

5 学生生活関係

(1) 学生の表彰

年 度	氏 名	該 当 事 項
平成5～9年度該当者なし		
平成10	桑 原 知 子	農学の研究分野において、優れた論文を発表し、高い評価を得るなど顕著な成果をあげた。
	藁 科 雅 岐	
平成11	前 田 桂 子	世界柔道選手権大会において、日本代表として出場し優勝したことにより、日本柔道の発展に貢献し、本学の名誉を著しく高めた。
	石 川 竜 也	世界選手権レベルのサッカー競技会において、日本代表選手として出場し、日本代表チームの牽引者として貢献し、本学の名誉を著しく高めた。
平成12～13年度該当者なし		
平成14	橋 本 充 司	教職にかける高い使命感と目的意識を持って勉学に励み、優秀な成績を収めた。また、現代教育に関する研究会「リベラル研究会」を組織するなど、本学学生の模範となる活動を行った。
	劉 璐 姍	学業成績が極めて優秀であり、傑出した卒業論文（優秀論文賞受賞）を提出した。また、「国際学生映画祭」等への出品などの課外活動並びに「日中国交正常化30周年記念日中友好市民の集い」等国際交流活動に貢献した。
	佐 藤 大 介	優秀な学業成績を収め卒業研究の「ペンによるメニュー選択に基づく日本語入力法」が、日本ソフトウェア科学会等で、成果を公表し好評を博した。
	新 田 佳 浩	障害者ノルディックスキー世界選手権大会（クラシカル10k）で、日本人初の金メダルを獲得するなど、日本障害者スキーの発展に寄与した。
	小 林 宏 之	ユニバーシアード大会サッカー競技日本代表として、優勝に貢献した。また、本学蹴球部キャプテンとしてインカレで優勝し、課外活動の発展に貢献した。
	長 弘 基	研究意欲が旺盛で、優秀な成績を収め、日本MRS学術シンポジウムで日本MRS奨励賞を受賞するなど、研究成果を発表した。
	韓 承 鎬	優秀な学業成果を収め、優れた研究論文の発表を行うとともに、特許出願の価値ある発明を行い評価された。
	山 本 剛	ピースボートでインターンシップを行ったのを始め、学生団体 JOB REVOLUTION、チェルノブイリ子供基金など、NPO活動を通じ社会的貢献をし、高い評価を受けた。
	高見澤 秀 幸	学位論文の内容2編が数理ファイナンス及び計量ファイナンスの分野で定評のある2つの国際ジャーナルに受理されたほか、顕著な研究業績をあげた。
	小 林 功	微細貫通孔が高密に配置されたシリコンチップを開発するなど（特許取得）、研究成果を学術誌に発表し、化学工学会関東支部長賞（学生賞）他2つの賞を受賞した。
飯 田 真 一	一貫して森林水文学特に蒸発散量の測定評価について研究を行い、優秀な成績と顕著な研究成果をあげた。特に博士論文では、学会誌で高い評価を得た。	
平成15	山 内 綾 香	「サイエンス・キッズ」（つくば市を中心とした小・中学生の科学体験の会）のサポーター代表として会の実施を支え、社会活動として多大な貢献をした。
	大 嶋 達 男	「四国EV（電気自動車）ラリー」に出場し優勝するなど、課外活動の成果が顕著であり、本学への貢献が大である。
	鐘ヶ江 幸 治	東京箱根間往復大学駅伝競走に日本学連選抜チームとして出場し、区間賞・最優秀選手賞（初回金栗賞）を受賞し、本学の名誉を高めた。
	関 口 水 美	東日本医科学生総合体育大会で中長距離6連覇、つくばマラソンフルマラソン総合女子で優勝するなど、優秀な成績を収め、課外活動の活性化のために寄与し、本学の名誉を高めた。

年 度	氏 名	該 当 事 項
平成15	高 安 亮	ユニバーシアード大会水泳100メートルバタフライで第3位になるなど優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた。
	永 井 奉 子	ユニバーシアード大会水泳100メートル自由形で第3位になるなど優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた。
	藤 永 佳 子	ユニバーシアード大会陸上競技10,000m で第2位になるなど優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた。
	鈴 木 徹	パラリンピックシドニー大会陸上競技走り高跳びで第6位になるなど優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた。
	青 木 一 義	カナダ航空宇宙局が所有する航空機を用いた微小重力実験を行い、国際協力研究において優れた研究成果を産み出し、研究発表において優秀講演賞を受賞し、極めて高い評価を得た。
	邢 鴻 雁	先端材料に関するIUMRS-ICAM-2003国際会議において、研究発表が奨励賞を受賞し、高い評価を得た。
	久 森 美 和	環境フォーラム:衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて、研究発表が実行委員長賞を受賞し、高い評価を得た。
	村 澤 裕 介	日本化学工学会バイオ部会において、研究発表がバイオ部会優秀ポスター賞を受賞し、高い評価を得た。
	見 村 夕 香	ラット網膜の小胞性グルタミン酸輸送体の研究を行い、神経科学分野の国際誌に掲載されるなど、優れた研究成果を発表し、高い評価を得た。
	佐 藤 勇 志	世界体操競技選手権大会で男子団体総合第3位となり、日本代表チームの一員として大きく貢献し、日本体操界の発展と本学の名誉を高めた。
	蔵 野 由 紀 子	青木繁記念大賞公募展において、石橋財団石橋美術館賞を受賞するなど、優れた作品を制作し、高い評価を得た。
	林 佐 和 子	あさご芸術の森大賞展において準大賞を受賞するなど、優れた作品を制作し、高い評価を得た。
	八 木 善 彦	視覚における選択的注意の二過程説を提案し、日本心理学会と日本基礎心理学会の学会誌等に掲載され、高い評価を得た。
	藤 生 健 太	今まで全く知られていなかった染色体分配システムの存在を提示し、高い評価を得た。
	杉 野 忠 宏	有機ケイ素化学における歴史的な発見をするなど、アメリカ化学会誌に掲載され、国際的に極めて高い評価を得た。
	石 川 英 介	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムにおいて、講演発表が超音波シンポジウム奨励賞を受賞するなど、高い評価を得た。
	小 野 朋 子	細胞内の個々のミトコンドリア間で遺伝子産物の交換が行われていることを初めて直接的に証明し、国際誌に掲載され、関連疾患の病態解明の研究等基礎研究と応用研究の両分野の進展に貢献するものとして高い評価を得た。
金 井 隆 太	デンプンやアミロースから環状の糖であるサイクロデキストリン (CD) を合成するサイクロデキストリン合成酵素と直鎖状のマルトヘキサオース (G6) を生成するG6-アミラーゼを結晶化し、X線立体構造を明らかにするなど、国際誌に発表し、高い評価を得た。	
金 居 正 幸	DNA損傷における修復機構に関与するとされているポリADP-リボース合成酵素-1 (PARP・1) が中心体にも存在することなどを発見し、外国の著名な学術雑誌に掲載されるなど、この分野への貢献が極めて大きいものとして高い評価を得た。	